

IV. シラバス

人間総合講座	2	逸見 功 佐藤 眞 小池 政行 遠藤 公久 川崎 修一 山崎 裕二 東浦 洋	前期
--------	---	--	----

【授業の目的】

看護学は学際的な学問であり、専門教育の基盤としてリベラルアーツ(教養)の重要性が益々増している。本科目は、看護の対象となる人間を総合的に理解するとともに、さらに豊かな人間性を高めるために開講されるものである。人間の特徴を「論理的思考」と「感性」というふたつの観点から捉える。今年度は「感性」をテーマにして、リベラルアーツとして多面的にあつかっていく。

【授業の進め方】

複数の担当教員が専門あるいは周辺の領域におけるトピックスを紹介しながら、それぞれ2回ずつ主に講義形式で進めていく。

【授業スケジュール】

- 第1回 講義の概要と進め方； 感性と論理－その1（逸見）
- 第2回 感性と論理－その2（逸見）
- 第3回 心理学はどのように感性を測定しようとしてきたか－その1（遠藤）
- 第4回 心理学はどのように感性を測定しようとしてきたか－その2（遠藤）
- 第5回 宗教における感性－その1 ①人を超えるものに対する感性（佐藤眞）
- 第6回 宗教における感性－その2 ②人のまわりのもの（自然等）に対する感性 ③他の人に対する感性（佐藤眞）
- 第7回 教育と感性－その1（山崎）
- 第8回 教育と感性－その2（山崎）
- 第9回 「選択の科学」と感性－その1（小池）
- 第10回 「選択の科学」と感性－その2（小池）
- 第11回 言語と感性－その1（川崎）
- 第12回 言語と感性－その2（川崎）
- 第13回 社会学における感性の問題－その1（東浦）
- 第14回 社会学における感性の問題－その2（東浦）
- 第15回 レポート課題と解説

【授業内容】

講義・演習

【参考書、参考資料等】

適宜紹介する

【成績評価の仕方】

レポート 100%

【受講上の注意事項】

国際保健助産学専攻の学生も同時に受講する。

看護科学特講	2	筒井 真優美	後期
--------	---	--------	----

【授業の目的】

「科学とは何か」「看護科学とは何か」の問いから、看護科学の向かう方向を探求する。

【授業の進め方】

課題について、資料を作成し討議する。資料は前日までに配布する。

【授業スケジュール】

1. オリエンテーション
2. 看護と看護科学
3. 科学と看護科学
4. 看護論の変遷（1）
5. 看護論の変遷（2）
6. 科学論の変遷と看護科学（1）
7. 科学論の変遷と看護科学（2）
8. 科学論の変遷と看護科学（3）
9. 看護科学における倫理的課題（1）
10. 看護科学における倫理的課題（2）
11. 看護科学における倫理的課題（3）
12. 看護科学の向かう方向（1）
13. 看護科学の向かう方向（2）
14. 看護科学の向かう方向（3）
15. まとめ・授業評価

【参考書、参考資料等】

授業時間に参考文献一覧を掲示する。

【成績評価の仕方】

授業への取り組み	50%
課題のプレゼンテーション	50%
合計	100%

【オフィスアワー・研究室等】

面接を希望される方は、事前にアポイントメントを取ってください。

メールアドレス：tsutsui@redcross.ac.jp

看護研究特講※CNS 科目	2	筒井 真優美 武井 麻子 福井 小紀子	前期
---------------	---	---------------------------	----

【授業の目的】

基本的な研究方法とその研究プロセスを学習し、同時に研究者の責任（マナー）や倫理的配慮について理解する。また国内外の研究論文を研究方法の妥当性・信頼性から評価する能力を養う。

研究法概論を論じた後、基本的研究方法を質的研究方法と量的研究法に分け、それぞれにその特徴とプロセスを学習する。学習した基本的研究方法の妥当性・信頼性の見地から、各自が収集した文献をクリティークすることを試みる。

【授業の目的と目標】

基本的な研究方法と研究プロセスが説明できる。

【授業の進め方】

プレゼンテーションおよびディスカッションを中心に行う。演習を取り入れることもある。

【授業スケジュール】

1. 授業概要（質的・量的研究）、授業課題（研究倫理、質的・量的研究論文クリティーク）
2. 研究方法概論：帰納的・演繹的研究、概念・モデル・理論・法則、研究方法の種類と研究計画
3. 研究倫理
4. 量的研究方法：研究デザイン（関連検証、因果関係検証、実態調査・因子探索、測定用具の開発）
5. 量的研究方法：実験研究法、実験以外の因果関係検証方法、実験のプロセス
6. 量的研究方法：調査研究法、調査のプロセス
7. 量的研究方法：量的研究における文献クリティークの方法
8. 量的研究方法：量的研究文献クリティーク
9. 修士論文の書き方、論文構成
10. 質的研究方法：エソノグラフィ、民族看護学
11. 質的研究方法：象徴的相互作用論およびグランデット・セオリー・アプローチ
12. 質的研究方法：存在論、現象的アプローチ、解釈学的方法論
13. 質的研究方法：アクション・リサーチ、質的研究のクリティーク方法と実際
14. 質的研究方法：質的研究のクリティーク
15. まとめ

【授業内容】

講義・演習

【参考書、参考資料等】

参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

【成績評価の仕方】

プレゼンテーション	40%
討議への参加	20%
レポート	40%
合計	100%

【オフィスアワー・研究室等】

事前にアポイントメントをとってから来てください。

メールアドレス：tsutsui@redcross.ac.jp（筒井）、a2-takei@redcross.ac.jp（武井）、sfukui@redcross.ac.jp（福井）

【受講上の注意事項】

主体的な参加を期待する。

国際保健助産学専攻の学生も同時に受講する。

コンサルテーション論※CNS 科目	2	武井 麻子 赤沢 雪路	後期
-------------------	---	----------------	----

【授業の目的】

看護および保健・医療・福祉の場でケアを提供する専門職者が直面するさまざまな問題を解決するための具体的援助方法としてのコンサルテーションの理論と方法を学ぶ。

【授業の目的と目標】

現場で起こるさまざまな現象についてアセスメントし、問題の分析ができる。コンサルティとの関係を理解したうえで、コンサルティの力を伸ばす援助ができる。看護にとってのコンサルテーションの意義を理解し、理論的根拠をもって実践することができる。

【授業の進め方】

コンサルテーションの対象・課題・方法について文献を紹介するとともに、具体的事例の検討を通して、複雑な問題を分析する視点と問題解決へ向けてのアプローチ方法を身につけていく。

【授業スケジュール】

1. コンサルテーションの歴史と概念
2. コンサルテーションの方法と類型
3. コンサルティ-コンサルタント関係の展開過程
4. コンサルテーションの課題：患者の問題
5. コンサルテーションの課題：スタッフの問題
6. コンサルテーションの課題：組織の問題
7. コンサルテーションの評価
8. コンサルテーションの倫理
9. コンサルタントとしての専門看護師の活動
10. コンサルテーションの実際（1）個別事例
11. コンサルテーションの実際（2）家族事例
12. コンサルテーションの実際（3）グループ事例
13. 演習：面接
14. 演習：事例検討
15. 演習：体験グループ

【授業内容】

講義・演習

【教科書】

適宜、資料を示す。

【参考書、参考資料等】

武井麻子『感情と看護一人とのかかわりを職業とすることの意味』医学書院、2001年 A. Obholzer & V. Z. Roberts(Eds), The Unconscious at Work,Routledge,1994.

Andriessen, A.H.E.& Fahlbruch,B."How to Manage Experience Sharing"Elsevier, 2004

【成績評価の仕方】

レポートおよび参加状況

【オフィスアワー・研究室等】

いつでも可。ただし、アポイントをとるほうが望ましい。

IV. シラバス

情報科学特講	2	逸見 功	後期
--------	---	------	----

【授業の目的と目標】

本講義の目的は、看護学の研究を行う上で必要な統計学の方法を修得することにある。量的研究では、研究デザインやデータ収集法を工夫するとともに、適切な統計手法を利用してデータを解析することによって、変数間の関連性から現象のメカニズムや因果関係を推測する。したがって、どのような統計手法があるかを知り、方法の考え方を理解する必要がある。また文献を読む際にも、統計学の基本的な知識だけでは不十分であり、比較的高度な統計手法について知っておくことが望ましい。本講義では、統計手法の概念的理解と適用法および結果の解釈に重点を置いて解説する。

目標はつぎのとおり。

- (1) 統計手法を概念的に理解できる
- (2) データ解析の結果とモデルを解釈できる
- (3) 研究目的・研究デザイン・データ収集法に応じて適切な統計手法を選択できる
- (4) 看護学の仮説を統計モデルで表現できる。最低限の到達目標は(1)と(2)である。

【授業の進め方】

看護学および関連領域の例をとおして、主に講義形式により授業を進めていく。研究に必要な統計学について基礎から解説して、実際の研究論文をとりあげながら統計手法の適用法を講義する。また演習として、統計学の視点に重きを置いたクリティークを行う。

【授業スケジュール】

- 第1回 講義の概要と進め方；看護研究と統計学
- 第2回 因果推論と統計的方法(1)
- 第3回 因果推論と統計的方法(2)
- 第4回 データ収集法；記述統計
- 第5回 基本的な推定法と仮説検定法(1)
- 第6回 基本的な推定法と仮説検定法(2)
- 第7回 ノンパラメトリック検定
- 第8回 単回帰と重回帰分析(1)
- 第9回 単回帰と重回帰分析(2)
- 第10回 モデリングの方法
- 第11回 分散分析と共分散分析(1)
- 第12回 分散分析と共分散分析(2)
- 第13回 ロジスティック回帰
- 第14回 因子分析(1)
- 第15回 因子分析(2)・共分散構造分析

【授業内容】

講義・演習

【教科書】

特に指定しない

【参考書、参考資料等】

「バーンズ&グローブ 看護研究入門」黒田・中木・小田・逸見（監訳）エルゼビア・ジャパン、2007
「エビデンスのための看護研究の読み方・進め方」高木・林（著）中山書店、2006

【成績評価の仕方】

レポート90%、授業への取り組み10%

【オフィスアワー・研究室等】

事前にアポイントメントをとって下さい。メールアドレス：hemmi@redcross.ac.jp

【受講上の注意事項】

受講に際して、自らの研究におけるデータ解析の目的や、文献で使用されている統計手法について疑問点を明確にしておくことが望ましい。

赤十字概論Ⅱ（国際人道法含）	2	東浦 洋	前期
----------------	---	------	----

【授業の目的】

赤十字運動の起源と活動

【授業の目的と目標】

赤十字の150年に及ぶ歴史、活動、基本的な原則、医療従事者として知っておくべき国際人道法上の権利と義務、国際的な救援活動の最低基準などについて検討する。今日の「複合危機」の状況下において赤十字が果たすべき役割、その活動領域、活動内容について分析し、とくに日本赤十字社が赤十字運動の一員として何をなすべきかを考える。赤十字についてまとまった話ができるようになる。

【授業の進め方】

赤十字の発達史を踏まえて、具体的な事例に基づき、赤十字事業について言及する。赤十字が他の国際機関(UN, NGO)とともに、どのような問題をかかえ、その解決に向けてどのような取り組みをしてきたかを具体的に扱う。赤十字災害救護の原則と規則、赤十字と NGO のための行動規範(Code of Conduct)、国際救援の最低基準(Sphere Project)、セブリア合意、国際人道法の発展、国際災害対応法(IDRL)、政府の補助機関としての各国赤十字社のあり方などについて考察する。さらに、救援から開発への切れ目ない展開の必要性と課題について考える。テーマごとの発表・討議に一定の時間を割くことにし、私が国際救援・開発協力の現場で考えてきたことについても述べる。

【授業スケジュール】

1. 講義の進め方について～私の赤十字との関わりについて
2. 赤十字運動（1）アンリ・デュナンの発想
3. 赤十字運動（2）国際人道法の発展
4. 赤十字運動（3）赤十字国際委員会
5. 赤十字運動（4）各国赤十字社
6. 赤十字運動（5）国際赤十字・赤新月社連盟
7. ミレニアム開発目標と赤十字
8. 最近の武力紛争の特徴
9. 国際人道法と医療スタッフの権利と義務
10. 多発する災害
11. 感染症
12. 行動規範、スフィア・プロジェクト
13. セブリア合意
14. 国際災害対応法(ICRL)
15. 救援・開発協力の在り方

【授業内容】

講義・演習

【教科書】

特にありません。必要に応じ、資料を配布します。

【参考書、参考資料等】

国際赤十字・赤新月社連盟『世界災害報告』（邦訳日本赤十字社国際部）、国際救援要請にかかる文書、各種の原則・規則等文書、連盟総会、代表者会議、赤十字国際会議の資料などを適宜配布する。

【成績評価の仕方】

課題の取り組み（50%）、レポート（50%）

【オフィスアワー・研究室等】

研究室（557）

アポイントメントは h-higashiura@redcross.ac.jp に連絡してください。

【受講上の注意事項】

なし

IV. シラバス

教育学概論	2	望月 厚志	前期
-------	---	-------	----

【授業の目的】

この授業は、「教育」全般についての理論的な理解を深めるとともに、看護教育実践の基礎となる考え方や知識・能力を培うことを目的としている。教育学の基礎理論と実践との関係や教員の役割、教師としての研修の意義や方法などについて検討する。それらを通じて、自らの被教育体験をふり返り、今後の生き方や教師としての力量形成について探ることも重要な目的としている。

【授業の進め方】

印刷資料や映像資料を使い講義をするとともに、受講者の研究発表に基づいての討論を行って授業を進める。

【授業スケジュール】

1. 「教育」とは何か（1）－本講義のガイダンスと授業計画の立案（シラバス使用）
2. 「教育」とは何か（2）－教育の基本的な視点①－生涯学習論の検討
3. 教育学の基礎理論（1）－近代教育諸理論①－欧米の理論
4. 教育学の基礎理論（2）－近代教育諸理論②－日本の理論
5. 教育学の基礎理論（3）－「社会化」理論と教育の課題
6. 教育学の基礎理論（4）－学校制度と社会（構造）
7. 教育学の基礎理論（5）－日本の教師と研修
8. 教師のライフコースの検討（1）－受講生の研究と発表を中心に－
9. 教師のライフコースの検討（2）－受講生の研究と発表を中心に－
10. 教師のライフコースの検討（3）－受講生の研究と発表を中心に－
11. 教師のライフコースの検討（4）－受講生の研究と発表を中心に－
12. 現代教育の課題（1）－高齢者教育
13. 現代教育の課題（2）－キャリア教育
14. 現代教育の課題（3）－看護教育
15. 今後の教育と教師の役割を考える－本講義のまとめと今後の学習課題

【参考書、参考資料等】

村井 実著『教育学入門（上・下）』講談社（絶版）、1976年
梅根 悟・長尾十三二編『教育学の名著12選』学陽書房（絶版）、1974年
稲垣忠彦・寺崎昌男・松平信久編『教師のライフコース』東京大学出版、1988年
宮本延春著『未来のきみが待つ場所へ』講談社、2006年

【成績評価の仕方】

各講義中・講義後の課題レポートと発表（60%）、学期末課題レポート（40%）に基づいて総合的に評価する。

【オフィスアワー・研究室等】

非常勤のためメールにて質問やご意見等をお受け致します。（mochi@mx.ibaraki.ac.jp）

学習心理学	2	遠藤 公久	前期
-------	---	-------	----

【授業の目的】

本講座では、学習に関わる心理学の基礎的理論について学ぶことを目的にする。前半では、経験による行動変容に関する諸理論、学習意欲を中心にした動機づけ理論、そして学習を支える認知過程について講義する。後半は、配布資料をもとに、「学ぶ」とはどういうことか、「わかる」とはどういうことか、「やる気」を高めるためにはどうしたらよいか、などについて議論や課題発表を通して理解を深めることを目的にする。

【授業の進め方】

1. オリエンテーション
2. 学習の基礎理論1：学習に関する理論の歴史的背景
3. 学習の基礎理論2：連合説と認知説1
4. 学習の基礎理論3：連合説と認知説2
5. 学習の基礎理論4：情報処理説
6. 学習の意欲1：動機づけの基本的考え方
7. 学習の意欲2：「やる気」を考える（意欲と帰属、コンピテンス）
8. 学習を支える認知過程1：記憶
9. 学習を支える認知過程2：知能と個人差
10. 学習を支える認知過程3：思考・問題解決
11. 学習指導の最適化および教育評価
12. 発表とディスカッション1（配布資料）
13. " 2
14. " 3
15. " 4

【授業内容】

講義・演習

【参考書、参考資料等】

適宜紹介する。

【成績評価の仕方】

授業参加度30%課題発表30%レポート40%

【オフィスアワー・研究室等】

メールにて予約をとってください。k-endo@redcross.ac.jp

IV. シラバス

学生理解	2	遠藤 公久	後期
------	---	-------	----

【授業の目的】

本講では、①生涯発達心理学的な視点から青年期という発達期を捉えること(現代青少年の価値観にも触れる)、②教師と学生の間関係をダイナミックな相互作用過程として捉えることで、青年期にある学生の理解を深めることを目的にする。また、教師として最小限に必要な学生理解のためのカウンセリングの基本的理論や技法についても学ぶ。後半では、看護を志す学生とそうでない学生に共通する諸特徴、また看護を志す学生ならではの諸特徴などについて、ディスカッションを通して理解を深めていく。

【授業スケジュール】

1. オリエンテーション
2. 青年期の発達心理学的な諸特徴1：生涯発達の視点から
3. 青年期の発達心理学的な諸特徴2：内面世界へ(不安や孤独感、アイデンティティ etc.)
4. 青年期の発達心理学的な諸特徴3：人間関係から(交友関係、「いじめ」経験 etc.)
5. 教師—学生関係1：教師側の認知過程(帰属過程、対人認知過程)
6. 教師—学生関係2：教師のリーダーシップ(学級集団)
7. 教師—学生関係3：学生関係同士の理解のために基礎理論
8. 教育現場におけるカウンセリング1：基本的考え方と技法1
9. 教育現場におけるカウンセリング2：基本的考え方と技法2
10. 教育現場におけるカウンセリング3：心理アセスメント
11. 教育現場におけるカウンセリング4：教師のアサーション1
12. 教育現場におけるカウンセリング5：教師のアサーション2
13. 発表とディスカッション1(配布資料)
14. 〃 2
15. 〃 3

【授業内容】

講義・演習

【参考書、参考資料等】

適宜紹介する。

【成績評価の仕方】

授業参加度30%課題発表30%レポート40%

【オフィスアワー・研究室等】

メールにて予約をとってください。 k-endo@redcross.ac.jp

経営管理学	2	横澤 利昌	前期
-------	---	-------	----

【授業の目的と目標】

経営学は人間学である。経営体と人体はどちらも機能と構造から成り立っている。

機能は管理面、構造は組織面で両者は統合されて経営体や人体を形づくっている。

また、経営学は歴史（過去）、原論（現在）、政策（戦略論・未来）、から構成されている。このように経営の全体像をとらえることが目的である。それを施設の経営、病棟の経営、看護の管理の本質を考えて具体的に実践に応用できることが目標である。

【授業の進め方】

講義、討論、課題発表を含めて進めていく。課題を事前に予習し発表できるようにしておく。

【授業スケジュール】

1. 経営とは何か。100年以上存続する老舗企業から経営の原理を考える
2. 経営管理と看護管理の類似点と相違点
3. 組織とは何か。チーム（医療）とは何か。組織成立の3要素
4. 組織のリーダーの仕事
5. 人材の育て方
6. ラダーを考える
7. 患者から看者へ（看られるものから見るものへ）
8. 患者満足から看者価値創造へ（ホスピタリティ）
9. 看護の質を考える
10. 経営戦略——計画学派、創発学派
11. ポジショニング・ビュー、リソースベースト・ビュー
12. SWOT 分析から十字形チャートへ Planning is Learning
計画作成過程が人材育成過程である。
13. 内部分析＝経営能力 強みと弱み 施設&病棟の分析
14. 外部分析＝環境予測 機会と脅威 施設の分析
15. 目標管理 まとめ

【授業内容】

講義、演習、発表

【参考書、参考資料等】

資料配布

【成績評価の仕方】

討論30% 発表30% レポート40%

IV. シラバス

医療と法	2	和泉澤 千恵	前期
------	---	--------	----

【授業の目的と目標】

医療に関連する法規は多岐にわたっており、日進月歩する医療を取り巻く状況や社会的背景などに応じて、法的な検討を要する事柄も多くみられる。また、医療の提供体制が複雑化するにつれて、各医療関係職種の業務内容をきちんと理解する必要性も高まっているといえよう。このような現状の整理・理解、問題点の把握や、医療関係職種の業務内容などを規定する制度に関する議論状況を検討することなどによって、自己の業務内容に対する理解を深めることを目的とする。

【授業の進め方】

受講者が授業テーマに関する予習を事前におこなってくることを前提として、テーマに対する理解を深めるために、検討を含めた討論を行うことによって、授業をすすめる

【授業スケジュール】

- 第1回 法というものの考え方
- 第2回 医療法；医療提供の理念
- 第3回 保健師助産師看護師法解釈の諸説
- 第4回 医療関係職種の現行法の構造
- 第5回 チーム医療における役割分担
- 第6回 看護と法的責任（過誤における法的構成）
- 第7回 看護過誤1 療養上の世話に関連する裁判例
- 第8回 看護過誤2 診療の補助に関連する裁判例
- 第9回 高齢者の看護 成年後見など
- 第10回 精神科の看護 身体拘束など
- 第11回 看護と介護
- 第12回 インフォームド・コンセント
- 第13回 生殖補助医療
- 第14回 安楽死・尊厳死
- 第15回 臓器移植

【授業内容】

講義・演習

【教科書】

特に指定しない予定である。

【参考書、参考資料等】

講義において、必要に応じて、適宜、指示する。

【成績評価の仕方】

授業における準備の程度、発言内容、テーマに関する報告・レポート等を総合して評価を行う。配点は、レポート・報告：60%、授業への参加：40%とする。

医療情報管理論	2	前田 樹海	前期
---------	---	-------	----

【授業の目的と目標】

凡そ医療専門職は情報依存の知識労働であり、その中には情報を利用するだけでなく情報を生成し、処理し、流通させるという活動も含む。本コースでは医療が情報集約型の専門分野であるという立場から医療活動を再定義するとともに、医療情報を管理する上で必要な知識および主要な話題を取り上げ討議を行う。

【授業の進め方】

講義およびそれにかかわる討議を行う。最終日にはプレゼンテーションを行う。

【授業スケジュール】

1. オリエンテーション
2. 知識基盤としての情報学
3. データ・情報・知識
4. 情報の視点からのアセスメント
5. 用語の標準化
6. 暗黙知と形式知
7. コンピュータの知識
8. 情報の定量化
9. 情報セキュリティ
10. 情報と倫理
11. 患者情報プライバシー
12. Evidence-Based Practice と情報
13. ネット上の情報資源
14. プリゼンテーション
15. 概括

【授業内容】

講義・演習

【参考書、参考資料等】

McGonigle D, Matrian K (2009). Nursing Informatics and the Foundation of Knowledge. Jones and Bartlett.
太田勝正, 前田樹海編著(2006). エッセンシャル看護情報学. 医歯薬出版.

【成績評価の仕方】

討議への参加度(50%)最終プレゼンテーションの完成度(50%)